

石油ストーブなどの安全な取扱い

予防課・危険物保安室

本格的な冬の到来に備え、石油ストーブなどの暖房器具のお手入れは万全でしょうか。

平成16年中におけるストーブによる火災(概数)をみると、全国で1,695件発生し、なかでも石油ストーブによる火災は1,023件で最も多く、全体の60.4%を占めています。また、ストーブによる火災の主な原因は、可燃物の接触・落下、引火・ふく射、使用方法の誤り、消し忘れ、過熱、使用中の給油などとなっています。

寒い時期を迎えるにあたり、これからストーブなどの暖房器具を使用する機会が多くなります。火災を発生させないよう、特に次の点に注意するよう心掛けましょう。

使用にあたっての注意事項

- ストーブの近くに紙や衣類など燃えやすいものを置かないこと。
- ストーブの近くでヘアスプレーなどの引火の危険性があるものを使用しないこと。
- カーテンなどがストーブに接触しないように、それらのものから離して使用すること。
- ストーブの上方に洗濯物などを干さないこと。
- 不完全燃焼による一酸化炭素中毒を防ぐため、定期的に部屋の換気を行うこと。

ストーブをつける前に
燃えやすい物がそばに
ないかの確認を！



ストーブで洗濯物を
乾かすのはやめましょう。



使用方法

- 取扱説明書をよく読んで、正しい方法で使用する。

- 石油ストーブに灯油を給油する場合は、火を消してから行うこと。

給油はストーブの
火を消してから。



- カートリッジタンク式の場合は、給油後、タンクのふたを確実に締めること。
- 一定以上の震動を感じたり、転倒した場合に自動的に消火する対震自動消火装置付きのものをできるだけ使用すること。

点火及び消火の確認

- 点火後は、炎の調節を行い、正常に燃焼していることを確認すること。
- 就寝時、外出時には、必ず完全に消火していることを確認すること。

設置方法

- 地震時の震動により転倒しないよう、固定する必要があるストーブは、必ず固定すること。また、煙突がついているものは、金属の支線などを使用して固定すること。

点検・整備

- 暖房シーズン前には、十分な点検・整備を行い、故障している場合は販売店などに修理を依頼すること。

危険物の保管

- 灯油用の容器は金属製のもの、またはポリエチレン製で適合性に係る推奨ラベルや認定証が貼付されているものを使用するとともに、必ず栓をしっかり締めて密閉すること。
- 保管場所は火気を使う場所から遠ざけるとともに、直射日光を避けた冷暗所とすること。
- 地震時に容器が転倒したり、落下物によって容器が破損したりしないようにすること。